協議会だより

発行・編集　大阪障害者スポーツ指導者協議会　広報部
大阪市東住吉区長居公園 1-32　大阪市長居障害者スポーツセンター内
TEL　06-6697-1402　FAX　06-6697-8613

平成 19 年 2 月 15 日
第 55 号

障害者スポーツに関わって

会長　松本　晃

最近感じることは、どの競技についても同じですが、アスリートの高齢化が進んでいるということです。トリノパラリンピックにおいても、ベテラン選手が多かったでしょ。

ずっとトップの位置におられるということも素晴しいことですが、障害者スポーツの更なる普及には、若年層への指導・育成を行い活躍してもらうことが大事ではないでしょうか。

大阪障害者スポーツ指導者協議会や他の団体とも、協会の理事会等だけでなく、いろいろな場面において情報・意見交換を行える環境があればいいと思います。

また、地域において皆さんが気軽に参加できる教室などを開催してもらいたいですね。

障害者スポーツの普及のため、もっと親しみやすい存在であればと思います。

『協議会だより』

松浦　春代

『協議会だより』は、年に数回発行されています。

平成18年度において、大阪の会員数は2000名を超えました。障害者スポーツ指導者（初級～コーチ）の資格を取得し、日本障害者スポーツ指導者協議会に登録をすれば必然と登録した住所の会員にもなります。

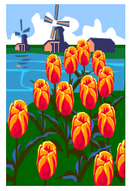
この先、どれ位増えていくのでしょう。　現在、広報は少人数でやっています。発送作業は、協議会（大阪）の理事の皆さんに手伝って頂き、進めています。この現状は決して良い環境だとは思っていません。

これからの課題の一つだと思います。

指導者の皆さんが、活動している地域において、『クラブチームを作って、スポーツを楽しんでいます。』

『私たちの地域では、こういう事をしています。』等々の投稿があれば紙面に載せ指導者の皆さんへ発信できると思いますし、各地域での情報や活動を知る機会になるのではないでしょうか。

（ただし、営利目的等の宣伝になるような原稿はお断りさせて頂きます）どうか会員の皆さんに関心を持っていただきご意見、ご感想を頂ければ幸いです。



国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会

2007年2月15日(木)･16日(金)･17日(土)
場所:大阪中央体育館(入場無料)
時間:AM10:00～
入場整理券を同封いたしました。是非、観戦・応援をお願い致します

ちょっとおじゃまします　　その２　クラブチ

聴力障害者ラグビークラブチーム

西日本クワイエットタイフーン

日本聴覚障害者ラグビー連盟　　会長　落合　孝幸氏

ルールは一般のラグビーとまったく同じです。
現在、普及方法として聾学校（小、中学）にお願いをして承諾を頂き、指導だけじゃなく、文化際などに大会の写真等を展示させていただいたり、難聴児のフリースクールにも行かさせてもらったりしています。

またクラブチームは東日本と西日本に分かれていますが、年に 1,2 回は合同で練習などもしています。デフリンピックでは参加資格条件が両耳合わせて 55 デシベル、ラグビーの世界大会においては参加条件が両耳合わせて 25 デシベルで条件が違ってくるためデフリンには出ていません。ラグビーは、怪我がつきものでそのあたり健聴者とまったく同じです。ただ、痛いことの訴えにどこまで伝えることができるのかという心配はあります。

しかし、通訳の方や、メディカルの方が手話をしっている時もあるので少しは安心しています。
また、聴力障害者同士でも、聴力の違いでコミュニケーションの取り合いが難しいときもありますが、練習に関しては、誰が来てもＯＫです。障害の壁をなくし進めていきたいとおもっています。
もしよろしければ、ホームページもありますので検索してみてください。

大阪障害者スポーツ指導者協議会の理事会は、第 3 月曜日、夜 7 時 30 分～
長居スポーツセンタークラブルームにて行っています。来て見てください。
（ただし、工事中のため４月以降になります）

平成 19 年度　総会の詳細が決まり次第お知らせいたします。

編集後記

気候がおかしいからか、体調を崩してしまう。
スポーツを行うには丁度よいかもしれない。
基礎体力作りに専念し、これからの大会等に備えてほしいです。取材して感じたことは、やはり体力は必要です。

サークル紹介

ちょっとおじゃまします

剣道サークル　　「道」

指導者　森近　秀斗

約 4 年前にひとりの青年と出会う。その青年は、歴史が大好きで「チャンバラ」もかなり好きで詳しい。
いつのまにか自然と剣道をマンツーマンでするようになりました。

現在は、10 人の子ども達と長居スポーツセンターで練習をしています。
知的障害者（児）、ダウン症、身体障害者（児）と障害は違うけれど楽しく、きびしく、やさしくそして、指導としては、健常者（児）とまったく同じ内容で行っています。
1 つの技を習得するのに、同じことの繰り返しを何度も行い、脱線や寄り道をして、今日は手と足だけ、また手だけ、分けて細かく、判りやすく、子ども達に言っていくようにしています。
目標をもってやっている中、あせらず、設定はせず、続けていくその中で、言っていた事ができた今までできなかったことが今日だけできた時は本当に嬉しい。
また、皆で評価のやりあいをする。
他の人の悪いところ良いところ、そして自分自身に対しての悪いとこと良いところを言い合う。「あかんところは？」と聞くと答えが返ってくる。
理解できていると確信します。

毎週土曜日、18:30～20:30　長居スポーツセンターにて練習しています。

がんばったよ♡

剣道着のおかたづけ

第 6 回全国障害者スポーツ大会

のじぎく兵庫大会

全国障害者スポーツ大会はスポーツを通じて人々の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加に寄与することを目的とします

はばたこう
ともに今から
ひょうごから

正式競技

- 陸上競技
- バスケットボール
- 車椅子バスケットボール
- フライングディスク
- アーチェリー
- 卓球
  （サウンドテーブルテニスを含む）
- バレーボール
- ボウリング
- 水泳
- サッカー
- ソフトボール
- グランドソフトボール
- フットベースボール

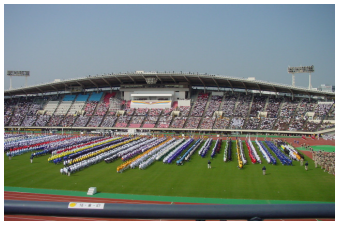
第 6 回全国障害者スポーツ大会に参加して

大阪府選手団　副団長（大阪障害者スポーツ指導者協議会　会長）
松本　晃氏

選手は日ごろの練習の成果を存分に発揮して、すごく頑張っていたと思います。ただ、会場が競技によって離れていたことが原因だとおもいますが、応援する方や、観客が少ない会場があり（特にサッカー競技）、もっとたくさん観戦していただける環境であれば、選手はもっとやる気になってくれたのではないでしょうか。

せっかくの全国大会ですから、選手団だけでなく観客も含めてもっと盛り上がりたかったです。

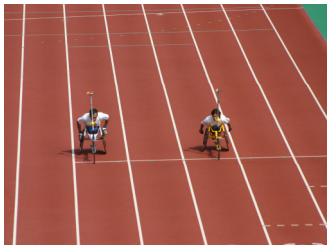
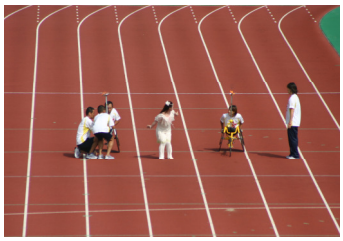
もうひとつ感じたのは、この大会は従来から大阪府・大阪市とわかれて選手団を構成していて、さらにＨ１８年４月からは政令市となった堺市も独自で選手団を構成されました。
選手の中で、私は大阪府選手団がいいと言っても、堺市在住の人にはそれは叶わない。やっぱり、オール大阪がいいのではないでしょうか？それでこそ大阪パワーを全国に知らしめることがで



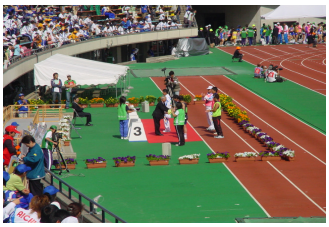
開 会 式

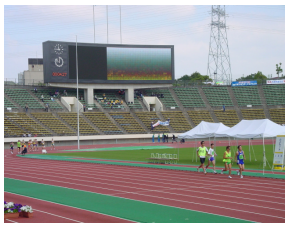
平成18年10月14日(土)神戸総合運動公園ユニバー記念競技場において、晴天に恵まれるなか全国障害者スポーツ大会が開催されました。

選手団の入場、開会宣言、大会旗入場と続き、炬火入場～点火、選手宣誓とスポーツ大会の幕開けとなりました。この大会より堺市が新たに加わり大阪として大阪府・大阪市・堺市の 3 つの選手団が出場しました。

大会では、サポーターの方々、各担当ボランティアの方々が快く支援していただきました。
選手の皆さんは、はばたんダンスを覚えることができたのでしょうか
はばたんには、選手の緊張を和らいでもらえました。





ファイナルコンサートには 4 名のフォークシンガーと楽団あぶあぶ&ミュージカルチーム LOVE の皆さんが懐かしい曲で選手たちをねぎらい、大会テーマ曲で「きみに伝えたい」を熱唱してくださった。ありがとう・ありがとう・ありがとう

閉 会 式

平成 18 年 10 月 16 日(月)閉会をむかえました。
大会旗は秋田県へと引き継がれました。

研 修 会

障害者水泳の理解(講義)及び障害別水泳(実技)

講師　福尾　ひさみ氏　(スポーツコーチ)

視覚障害者の誘導方法

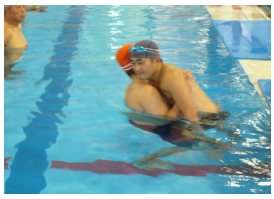
車椅子からの介助　1

車椅子からの介助　2

リラクゼーション

リラクゼーション

入水介助　1


入水介助　2

退水介助　1

退水介助　2

リラクゼーション

タッピング

タッピング

タッピング

平成 18 年 10 月 8 日、大阪府立障害者交流促進センター(ファインプラザ)において、障害者の水泳指導に関する研修会が行われました。本研修会は、障害者に関するスポーツの専門知識や指導方法を学ぶことを目的として行われており、講義 32 名、実技には 35 名の参加がありました。

講義は、日本障害者連盟に所属するスポーツコーチの福尾ひさみ講師が「障害者水泳概論」という題で、障害者に対する水泳指導について、障害の分類ごとに必要な知識と留意点について学びました。浮力についても教えていただきました。浮き身が重要なのは知っていましたが、障害の箇所や程度によってバランスの取り方や体勢の維持が難しいことを改めて知りました。

実技の方は、視覚障害者の方の誘導方法を考えながらプールサイドからシャワー室までの案内をペアになって行い、誘導する方も、される方も真剣に取り組んでいました。次にプールサイドの車いすに乗った状態から水中への介助を行いました。しっかり抱えたはずが、いざ抱えあげるとずり落ちそうになるなどなかなか大変でした。

最後にタッピングの練習をしましたが、泳法の違いでタッピングをする箇所やたたき方の違うこと、泳いで来るスピードに対する距離感の難しさを体験しました。

時折、笑い声の聞こえる和気あいあいとした雰囲気の中で進んだ研修でしたが、「いろいろな体験をしながら楽しくて、あっと言う間に終わってしまった。」というのが正直な感想でした。

今回参加できなかった指導者の皆さんも次回は是非参加してみてください。皆さん自身が日頃しているスポーツに関する体力、知識、技術の向上にも役立つはずです。そして障害者のスポーツ振興に役立てて頂けたらと思います。

広報　鈴木　光一